

第37回  
作文・図画コンクール作品集



ごはん  
お米とわたくし



# 目次

◆ごあいさつ	1
JA岩手県中央会 会長 田沼 征彦	
◆図画部門入賞作品	2
◆作文部門入賞作品	8
◆総評	14
審査委員長／岩手県教育委員会 委員長 八重樫 勝	
◆図画部門を審査して	14
前岩手県国立幼稚園協議会 会長 伊藤 満久	
◆作文部門を審査して	15
盛岡市教育委員会 学校教育課 指導主事 及川 公子	
◆コンクール入賞一覧	16
◆コンクール概要	20



## いづみこむし

じえい えい い わ て けんちゅうおうかい  
JA岩手県中央会

かいちよう  
会長 田沼征彦

第三十七回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに、作品をご応募いただきましたみなさまに厚くお礼を申し上げますとともに、入選された方々には心からのお祝いを申し上げます。

このコンクールは、小・中学生のみなさまに、主食であるお米・ごはんの大切さや稲作、ひいてはわが国の食料、農業に対する関心や理解を一層深めてもらうことを目的に開催いたしております。

三十七回目を迎えた今回も、県内各地から作文九十九点、図画百七十三点もの力作が寄せられました。この中から全国コンクールにおいて、図画部門で一点が農林水産大臣賞に入選し、作文部門二点、図画部門一点が優秀賞に入選いたしました。

近年、わが国の農業は、TPP（環太平洋連携協定）という新たな貿易等に関する協定への交渉参加問題で大変厳しい状況におかれています。TPPは全ての品目の関税を撤廃することを原則としており、撤廃されれば、アメリカやオーストラリアなどの広大な農地を持つ国からお米や牛肉などの農畜産物が大量に輸入され、わが国の農業は壊滅的な打撃を受けてしまいます。それにより、地域の田んぼや農地は荒れ果て、取り返しがつかなくなる可能性があります。今でさえ、食卓にならぶ食べ物の六割は輸入品が占めており、食料自給率がこれ以上、低下することは、日本人の食生活を危うくすることになってしまいます。

こうした「食」をめぐる状況のなかで、JAグループでは、これか

らの日本人にとって「よい食」とは何かを、消費者のみなさんと一緒になって考えて行動しようと、「みんなのよい食プロジェクト」を立ち上げ、全国的に取り組みを進めております。「食」の未来をつくることは、日本の未来をつくることにつながります。その中心となるのが、日本の食文化を築いてきたお米です。

東日本大震災から間もなく二年を迎えようとしています。みなさんから寄せられた作品を拝見いたしますと、被災した田んぼを目の当たりにして感じたことや、お米や食料に対する大切な思い、家族や地域の人たちとの「絆」の強さなど、いずれも純粋な目で的確にとらえ、日頃の体験や出来事が描かれておりました。子どもたちの純粋な感性が、作文や図画を通じて表現されているのが、このコンクールの大きな特徴です。

このコンクールを通じて、家族や友人を大切にする心、地域の人たちへの感謝、伝統ある食文化への敬意、そして心を込めて育てたお米のおいしさや農業への素晴らしさに気付き、考えるきっかけになってくれることを切に願っております。

最後に、小・中学生のみなさまの豊かな心を育ていくためにも、学校の先生方をはじめ、関係するみなさま方のご支援とご協力により、このコンクールをますます発展させていただきますようお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。



ぜんこくゆうしゅうしょう  
**全国優秀賞**  
 いわてけんきょういくちょうしょう  
**岩手県教育長賞**

「実りの秋」

さいとうみのり  
**齋藤実理**

ひらいずみちやうりつひらいずみちゆうがっこう ねん  
 平泉町立平泉中学校 3年



のうりんすいさんだいじんしょう  
**農林水産大臣賞**  
 いわてけんちじしょう  
**岩手県知事賞**

「かかし」

かりやしのみ  
**刈谷志乃美**

おおふなとしりつおきらいしやうがっこう ねん  
 大船渡市立越喜来小学校 6年





じえいえいいわ て けん ご れんかいちようしょう  
**JA岩手県五連会長賞**

「喜びの季節」  
 ふくしまなつき  
**福島菜月**  
 きたかみしりつえのちゅうがっこう ねん  
 北上市立上野中学校 1年



とうほくのうせいきよもりおか ちいき ちようしょう  
**東北農政局盛岡地域センター長賞**

「いっぱいたべるぞ、いただきますあす！」  
 うえだしょうた  
**上田翔大**  
 にのへしりつきんたいちようがっこう ねん  
 二戸市立金田一小学校 2年





ゆうしゅうしょう  
優秀賞

「もぐもぐ、おいしいごはんだよ！」

いとうせびあ  
伊藤恋彩

はなまきしりつちかわめしょうがっこう ねん  
花巻市立内川目小学校 2年



ゆうしゅうしょう  
優秀賞

「田植えおどりと米」

たかの はし まゆこ  
鷹 翫 真由子

はなまきしりつちかわめしょうがっこう ねん  
花巻市立湯口小学校 5年



「つながっているお米」

きく ち 菊池 みずき

おうしゅうしりつきざいくしやうがっこう 3年  
 奥州市立木細工小学校 3年



この前、きょう土文化館に休けん学習に行きました。その時、昔の道具をたくさん見ました。いろりや羽がま、わらぐつやみの、とうみなどがありました。たくさんのお米が、お米につながっているなあと思いました。

その次に、昔のお米作りのもけいを見ました。昔の田んぼは小さくて、形がばらばらでした。代かきでは、くわや牛を使っていたし、田うえは、みんな手でした。大昔のいねかりは、みんなで石のほう丁を使っていました。

作り方も、服や家なども今と全然ちがうけど、お米は、ずっと前から作っているんだなあ、びっくりしました。

「みずき、さい後まで食べ。」

ごはんの時、いつもじじに言われます。

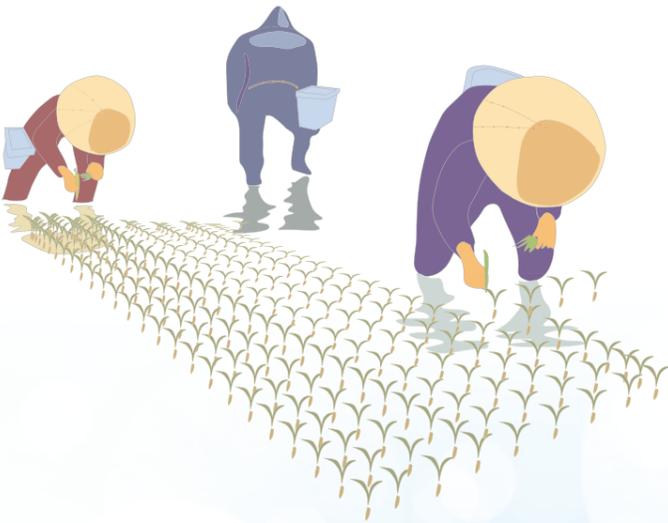
「お米、流さねえようにな。」

お米とぎを手つだうと、ひっこが言います。わたしが生まれる前は、うちでもお米を作っていて、みんなお米を作る人の気持ち分かるから、お米を一つぶでも大切にすることだと思えます。それに、わらは、かっていた牛にあげたり、かごを作ったりしたそうです。野さいのぬかづけも、とてもおいしいそうです。

こんなふうには、ずっと昔から一つぶのお米も、わらやぬかも大切に、ずっとつながってきたんだと思いました。

もう、うちではお米は作っていないし、わらを使うこともないけど、わたしの家族は、ごはんが大好きです。真っ白いたきたてごはん、竹の子ごはん。おべん当のおにぎり。とにかく全部大好きです。昔から、たくさんのお米が食べてきたお米だから、みんな大好きなかなあと思います。

二千年いじょうも前から食べられているお米は、だから



「米をつくるということ」

さ さ き えり か 佐々木 恵利佳

りくぜんたかたしりつよねきしやうがっこう 6年  
 陸前高田市立米崎小学校 6年



六年間歩いた通学路。その途中には、田んぼが広がっている。私は、四季おりおりの田んぼの風景が好きだ。今年の夏は、猛暑続きで、まだ九月上旬だというのに、もう稲は、黄金色。穂先は、こうべをたれている。しかし、この田んぼは、震災の影響がない所。少し海側へ行くと、かつての田んぼはない。

私の住む陸前高田市は、去年大地震と大津波で、建物はもちろん、田や畑まで大きな被害を受けた。一年と半年が経っても、もとあった田んぼは、にごった水と私の背丈ほどの草が生い茂っている。それは、初夏のころのバンザイをしているイネと冬の地割れした田んぼのようだ。複雑な心境である。父は、

「たくさんのがれきや石を取り除き、これでもきれいになったんだ。津波の後には、流された車やこわれた家があり、田んぼには全然見えなかった。」

と話していた。私は、おどろくばかりだ。近所に住むおじさんの田んぼは大きな被害を受け、とてもなげいていた。

「しばらくは、米づくりができない。塩水をかぶってしまった、もとの田んぼにもどるには、はやくて五、六年はかかるだろう。」

と、おじさんは、遠い海の方を見て話した。

「米づくり」は大変だ。私の家にも田んぼがあり、祖母が作業をしているのでわかっている。五年生の時は、実際に学校で米づくりを体験した。「米づくり」といえば、田植えや稲刈りなど、機械で行う印象が強く、簡単そうである。しかし、手作業も多い。仕上げは、人間の手だ。そして、田んぼの管理も大変な作業の一つだ。特に大変だと

思うのは、夏の草刈りだ。暑い中での草刈りを祖母は汗だくで行っている。顔は、真っ赤だ。私は立っているだけでくらくらしそうだった。秋の稲刈りの後「はせがけ」をする。これを行うことで、機械乾燥よりもずっと甘みが出るそう。田んぼのすみの稲を刈り取る、刈り取った稲をトラックに積みこむこと、稲をはせがけすることは、小さいころから、私が手伝ってきたこと。毎日あたりまえに食べているが、米づくりは、日数と手間がかかっている。でも忘れがちになる。

近所のおじさんは、「米をつくること」をあきらめてはいない。きっと自分が納得できる米づくりがしたいのだと思う。

六年生の社会科で、米づくりの歴史について学習した。始まりは、今から二千五百年も前のこと。その後は、ききん、水不足、冷害などがあつた。東北地方は冷害による影響を受けている。しかし、東北人は強い。困難に負けず、米づくりを続けて現在に至っている。

震災前の田んぼが広がる陸前高田市になるには、数年かかる。私ができることといえば、家の米づくりを手伝うこと、米づくりをしようとする人達の心を大切にしていきたいこと。まずは、五年後の陸前高田市を期待したい。

物みたいと思いました。これからもたくさん食べたいし、みんなにも食べてもらいたいです。そして、こんなにすくいお米を、ずっとつなげていきたいです。

「田んぼの風景」

さ が ゆう と  
嗟 峨 優 人

く しりつ べんがく ちゆうがう  
久慈市立宇部中学校 1年



僕は、田んぼの風景が大好きです。僕の祖母は毎年、親せきの米づくりの手伝いをしていて、僕も、なえを分ける作業をした事があります。だから、よく、田んぼを見に行きます。そのたびに、おたまじゃくしが泳いでいたり、とんぼが田んぼの上を飛んでいたりと、自然の美しい景色を季節ごとに楽しむ事ができます。そんな田んぼを僕がまだ小さい時から見ていたので、いつの間にか、田んぼを好きになっていました。

何度も田んぼを見て、田んぼで働く人達は、一生懸命な顔で田んぼの米を育てているように見えました。また、無事に米を収穫した時の顔は嬉しきであふれているようでした。自分で育てた物を食べたり、売ったりして生活している人達は、準備や世話がとても大変な分、田んぼや畑から嬉しさをもらっているのではないかと思えるのです。また、自給自足の昔ながらの生活は、とても素晴らしい事だと思っています。スーパーやコンビニ、産直など、何でも手に入り、普段、何気なく食べられる農作物は、心をこめて育ててくれる農家の人達のおかげだと改めて思います。

しかし、僕の町では、お米を育てられなくなって、あいてしまった田んぼがあります。それに、今年のお米が例年より約十日ほど成長が遅れているなどの問題でお米づくりに不具合が起きているという事を聞きました。僕は、自分がいつも食べているお米が、さまざまな事情で減っているという事を聞いて、不安に思いました。今は、全国で米不足というわけではないようですが、やはり、ごはんが大好きなので、悲しくなりました。

悪い事だけでなく、良い事も聞きました。それは、自然や病気に強い米の品種をつくる研究が進められているとニュースで見た事です。以前、祖母が手伝いに行くお米農

家の方が、米を育てている上で、悪天候と、病気が怖いと言っていました。だから、病気に強いというのは、とても心強いと思いました。また、そのおかげで田んぼの問題や、減少が防げれば、田んぼに住む生き物達にも、住む環境が増えて良い事だなと思いました。

そのように考えると、米や田んぼは、人間だけでなく沢山の生き物のバランスを支えているのだと思いました。また、米や田んぼ、生き物のために、人間が、自然とバランスのとれた生活の仕方をするべきだと思いました。ですから、昔から自給自足で生活してきた人達は、自然と向き合ってきた、上手な生活の仕方をしていたんだなと改めて思いました。

僕は、身近に自然と向き合える環境があるので、農家の方々の生活を勉強する事ができます。昔ながらの生活と言っても、品種改良や、トラクターなどの機械は、農家の方々にはなくてはならない物です。昔ながらの生活も、新しい便利な技術も両方に良さがあり、両方に不便で直す事があると思います。僕は、その両方が上手にバランスをとれて、良い所を増やしていかなければならないと思います。

皆さんもお米を食べる事が多いかと思えます。僕は、毎日お米を食べています。お米は僕の健康をささえてくれます。お米のおかげで、僕は小学生の六年間、一日も休まずに登校する事ができました。僕は、大好きなお米を食べられる事に感謝しています。

今年も田んぼは、稲穂が重みで下を向き始めました。五月、六月の寒さや、猛暑に負けずに実の秋を迎えました。「今年も無事に実ればいい。」

と、言っていた祖母も安心した顔をしていました。刈りとりは九月の末です。

「ごはん・お米とわたし」

か わ むら ひ な こ  
川 村 日向子

はなまき しりつ いしじり やちゆうがく ちゆうがう  
花巻市立石鳥谷中学校 3年



「お米一粒だつてつくるのに一年かかるんだよ。感謝して残さず食べる。」

おわんにご飯をこびりつかせたまま夕食の席を立とうとした私を、後ろから祖母が引き止めた。「えー。面倒くさい。」と唇をとがらせてみても祖母は「食べる。」と言うばかりで、私は渋々席に戻った。別にこれくらい残したっていいじゃないか。内心そう思ったが祖母の視線を受けながら私は、仕方なくおわんの底にこびりついた米を一粒一粒口に運んだ。最後までしつかり食べきった私を見て祖母は満足げに笑った。何で笑ったのか意味が分からなかったし、底の粒は少し硬くて味もあまりしなかった。

五月になり、毎年恒例の田植え作業が始まった。祖母の家には田が二つほどあり、毎年作業を手伝っている。その中で私は毎年苗を植える家族の姿をただ眺めているだけだった。しかし、今年は祖母の一言で作業を手伝うことになった。

「お前、今日苗を植えてみる。」

寝床から顔を出してきた私に祖母は言った。いきなりの祖母の言葉に少し驚いたが、昔の長ぐつを引っぱり出し祖母について田へ向かった。

田につくと、祖母は私に長ぐつを脱ぐように命じた。そして嫌がる私の手を引いて田の中に素足で入っていった。田はまだ冷たくて少し鳥肌が立った。

「じゃあ苗をこのくらいとって植えてみる。」

祖母は苗の束から少しつまみとって実際に植えてみせた。私は泥の感覚に顔をしかめながら、見よう見まねで苗を植えた。ずつと背をかがめているせいで腰が痛み、作業は思いの外大変だった。しかし、作業が進むにつれて手際よく真つすぐに植えられるようになった。自分の後ろには苗の道ができていて少し楽しくなってきた。この苗がお米に

なつて私の口に入るんだ。そう考えると自然と作業も丁寧になり、効率も上がっていった。そしてついに最後の一束。気持ちよこめてそつと植える。祖母の列と比べてだいぶまがっているが、最後まで植えきった達成感があった。

「あの苗が米になるんだからすごいべ。わたしたちは命をいただいているんだよ。だから、一粒一粒感謝して食べなきゃバチがあたんど。残すなんてバカものだ。」

先に苗を植え終えて土手に腰をおろしていた祖母が、少し口調を強めて言った。

「二年手間暇かけて一粒ができるんだよ。米だけじゃねえぞ。食うもん全部、感謝なんだよ。」

祖母の言葉がとげになってつき刺さった。ああ、自分は今まで何てことをしていたのだろう。平気で食べ物を残すなんて。祖母が言う通り私はバカもんだ。たったの米一粒ができるまでの苦勞を私は身をもって感じた。それと同時に私は食べ物に絶対に粗末にしないと心に決めた。

その日から、ご飯を食べるたびにあの祖母の言葉が頭をよぎった。しかし、あの言葉を私は今素直に受け止める。自然と最後まで食べきるようになり、食べ終わったおわんはいつもピカピカだ。米だけではない。苦手な野菜も残さず食べる。この食物が作られるまでどれだけの人が携わってどれだけの時間と苦勞がかかっているのか、身をもって感じたから、残すわけにはいかない。物を食べられるということ自体がとても幸せなことで、食べたくないから、嫌いだから、そんな勝手な理由で命を粗末にしてはいけないんだ。食べ物を大切に感謝しながら残さず食べる。あたりまえだが、私が忘れかけていたことを祖母は身をもって教えてくれた。

今日の米一粒も、たくさんの方の思いが詰まった優しい優しい味がした。

「あたりまえのことに感謝して」

すず き まり な  
鈴木 茉莉奈

おうしゅう しりつうわ の ほらしょうがっこう おん  
奥州市立上野原小学校 6年



毎年楽しみにしていた学校の学級園での作物作り。さつまいも、じゃがいも、かぼちゃ、きゅうり……。一年生のころ、先生に作ってもらったスイートポテトは、とってもおいしかった。しかし、それも三月十一日以来と覚えてしまった。今年は放射線量が下がらず、土をいじることはもちろん、外で遊ぶことも少なくなった。最後の運動会も、走ることに体育館で行った。

お米はだいじょうぶだろうか？私は、お米を炊いてできたほかほかのごはんが、大好きだ。みんなもお米が大好きだ。お米がきらいだという人に、私は会ったことはない。お米は、まぎれもなく日本人の主食。命の源である。震災により、沿岸部の田も津波におそわれ、お米を作ることができなくなった。しかし、幸いなことに、私の家の近くの田では、いつものようにお米が作られている。私たちはまず、このことに感謝しなければならぬ。田でお米が作られることは、あたりまえのことなのかもしれないが、作りたくても作れない人たちが、沿岸にはたくさんいるのだ。お米を今年もあたりまえに作れることに感謝しなければならぬと思う。

作りたくても作れない人たちは、何も沿岸に限ったことではない。農業人口の高れい化、政府の減反政策などにより、内陸にもお米を作りたくても作れない人がたくさんいるのだ。これは、私たちの食生活が変化したことも大きい。私もごはんが大好きだけど、たまにはめん類やパンを食べたくなる。給食にもごはんばかりでなく、めん類やパンも出る、食べている時は、こんなふうに農家の人たちのことなど考えず食べている……。わがままな私。でも最近は一

粉」という言葉をよく聞き、パンやめん類が作られている。米粉パンには最初はとまどったが、今では、あの歯ごたえがやみつきになってきている。みんな、これからの日本の農業のことを、いろいろ工夫して考えているのだと思う。

私の小学校は、私の卒業後一年で閉校となる。今、学校の歴史や地域のことを調べているが、私の住む上野原は、昔は不毛の地だったという。そこをみんなの力で開拓し、今のような緑いっぱいになったのだ。作物を実らす豊かな土にするには、どれほどの苦労があったのだろうか。校歌の二番には「空広く 森は緑に 土の香の 満ちあふれつつ」という開拓の喜びが歌われている。今ではみんな、あたりまえのように生活しているが、開拓者たちのおかげで、おいしいごはんが食べられるということ忘れてはいけないのだ。

今、私には何ができるだろうか。農家でもない私は、情けないが、ごはんを感謝して食べるということしかできない。それでもいい。あたりまえにごはんを食べられる幸せに感謝して、今日も私は大きな声で言いたい。

「いただきます!!」

「ごはんと牛にゆうのコラボレーション」

やま だ かい  
山 田 快

おおふなと しりつ おきらいしょうがっこう おん  
大船渡市立越喜来小学校 1年



ぼくは、一ねんせいの中で、一ばんせがたかいです。いろいろな人から、

「えー、一ねんせいなの。三ねんせいぐらいかとおもった。」といわれます。ぼくは、ちよつぴりうれしいきもちになります。でも、うまれたときは小さくて、おとうさんとおかさんがしんばいしたそうです。

ぼくが、大きくなったのは、ごはんをたくさんたべるからだとおもいます。ごはんをのこさずにたべることがぼくのもくひょうです。ごはんをたべていて、あと二口ぐらいのこつて、ぼくがなやんでいると、おかあさんが、

「がんばってたべてね。」

とふりかけをかけてくれます。ぼくは、一口でペロリとたべてしまいます。そして、しあげは、牛にゆうです。牛にゆうをのむと、すつきりします。

ごはんと牛にゆうのコラボレーションのおかげで、ぼくは、どんどん大きくなりました。ごはんのおかげで、パワーもつきました。小がっこうでは、マラソンをがんばっています。ひろいこうついで、トラックをなんしゆうもはしるのでさいしよは、つかれてへとへとでした。でも、がんばってはしりました。いまでは、十しゆういじよはしれるようになりました。マラソンをがんばったおかげで、きゅうしょくも、もりもりたべています。ぼくは、パンよりごはんのほうが、パワーがでるのでごはんのときのほうがうれしいです。

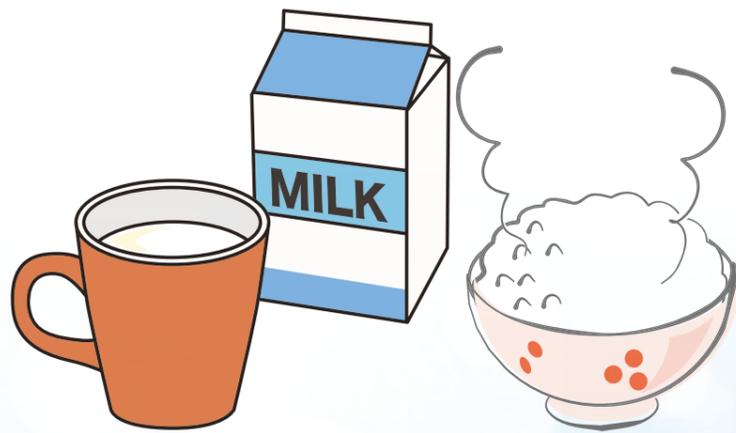
おとうさんは、ときどき

「かいのしんちようが、二メートルになってバスケットボールのせんしゅになれ。」

といいますが、ぼくは、

「うーん。あまりすまないなあ。」

といいます。でも、大きくなることは、いいことなので、これからも、ごはんと牛にゆうのコラボレーションをつづけていきたいです。



総評



審査委員長  
岩手県教育委員会  
委員長

八重樫

勝

第三十七回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに、たくさんの方の応募をいただき、ありがとうございます。

このコンクールは、作文や図画に取り組みを通して、身近にあるごはんやお米を見直したり、農業の大切さや働くことの大切さを考えたり、家族や郷土について考えたりしてほしいという趣旨で実施されています。

一昨年のあの想像を絶するような東日本大震災から、間もなく二年になります。仮設住宅で暮らしている人、校庭で思いっきり運動できない人など、依然として厳しい環境の中での生活が続いています。また、児童生徒の皆さんは学校生活の中でやらなければいけないことがたくさんあります。

そのような中、歴史のあるこのコンクールに今年も多くのお申し込みがあり、このコンクールに寄せる期待の大きさを強く感じました。

岩手県においては、十月に第一次審査を行い、作文・図画それぞれ九点、合わせて十八点を全国コンクールに応募しました。

その結果、今年は図画部門で越喜来小学校六年の刈谷志乃美さんが農林水産大臣賞を受賞する快挙がありました。また、優秀賞に作文部門で、木細工小学校三年の菊池みずきさん、米崎小学校六年の佐々木恵利佳さん、図画部門では、平泉中学校三年の齋藤実理さんの三人が入賞しました。

これは岩手の作品のレベルが全国から高く評価されたものであり、入賞した皆さんに心からお祝いを申し上げます。

十二月に行われた県の二次審査会において岩手県の各賞を決定しました。入賞された皆さん、おめでとうございます。

指導された先生方や温かく支えていただいたご家族の皆さんにもお祝い申し上げます。

審査をして感じたことは、皆さんが一つの作品を完成させるために、いねいに色を塗ったり、推敲を重ねて表現を工夫したりしている様子が伝わってきたことです。家族が働いている姿をよく観察したり、食糧問題について真剣に考えたりして作品を作り上げていくことが感じられました。震災を克服し、またおいしい米を作ろうとしている家族のたくましい姿を表現した作品が多くあったことも特徴的なことでした。

図画では、題材として米づくりのために精いっぱい働いている様子が取り上げられ、描く視点に広がりがあったこと、人物については明るい表情やいねいな描き方、効果的な画面構成で、米づくりへの明るいメッセージを送っているように感じられたことです。

作文では、身近な題材を取り上げ、書き方を工夫して一生懸命原稿用紙に向かっていく様子が伝わってきました。どの作品も、食べられることへの感謝の気持ちや人と人とのつながり、家族への愛情があらわれていました。

このコンクールが、ごはんやお米など食糧の大事さや農業の大切さを再確認するきっかけになるよう期待しています。

図画部門を審査して



前岩手県国公立幼稚園協議会  
会長

伊藤 満久

受賞された皆さんおめでとうございます。ご指導にあられた先生やご父母の皆様もさぞ喜びのことでしょう。震災後の復興もままならない二年目の今年ですが、県内各地から元気溢れる応募作品を前にし、それらの作品から逆に元気をもらい楽しく審査させていただきました。

今年度の応募校は三十八校（応募総数一七三三点）でしたが、全国審査には厳選して九点推薦いたしました。その結果、農林水産大臣賞に一点、優秀賞一点計二点が入賞し、岩手から発信した美的感性の豊かさが高い評価を受けたものとうれしく思っております。では、県審査で入賞した個々の作品について選評いたします。

全国の農林水産大臣賞と、岩手県知事賞を受賞した大船渡市立越喜来小六年刈谷志乃美さんの「かかし」は、画面中心に稲穂を守っている、かかしの迫力のある立ち姿の表現がすばらしい秀作です。更に、背景に除草している人や青空をいねいに描きかかしを一層引き立てています。同じく全国の優秀賞と岩手県教育長賞を受賞した「実りの秋」（平泉中三年齋藤実理さん）は、稲刈りの情景を遠近法で描き、手前に豊作の喜びを噛みしめているような後ろ姿の二人や、半円状に立体的に表現している田園などを明るい色調でまとめ完成度の高い作品です。次に東北農政局盛岡地域センター長賞の二戸市立金田一小二年上田翔大さんの「いっぱいいたべるぞ、いただきますあす！」は、今まさににおにぎりを口に入れようと

作文部門を審査して



盛岡市教育委員会学校教育課  
指導主事

及川 公子

第三十七回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに、今年も多数の児童生徒の皆さんが応募してくださいました。間もなく、東日本大震災から二年になりますが、今なお震災の影響がありながら、ひたむきに、前向きに学校生活をおくっている児童生徒の皆さんからも、たくさんのお申し込みをいただきました。ありがとうございます。

どの作品も、ごはんやお米作りをテーマにしながら、皆さんがよく考え、書き方を工夫して、一生懸命に取り組んだ様子が伝わってきましたので、審査をしながら大変うれしくなりました。

岩手県知事賞を受賞した佐々木恵利佳さん（陸前高田市・米崎小学校六年）の「米をつくるということ」は、被災した陸前高田の現状や、そこでの米作りの難しさを取り上げながら、米作りをしようとする人々の心を大切にしたいという思いを述べています。読む人の心に迫る作品です。

岩手県教育長賞を受賞した菊池みずきさん（奥州市・木細工小学校三年）の「つながっているお米」は、郷土文化館で学んだことや考えたことを丁寧に書いています。二千年以上昔から食べられてきたお米、薬や糠までが生活に役立つお米を「つながっている」と表現したところが上手です。

東北農政局盛岡地域センター長賞を受賞した川村日向子さん（花巻市・石鳥谷中学校三年）の「ごはん・お米とわたし」は、苗うえの手伝いと、祖母の「食べ物みんな感謝なんだよ」との言葉により、た

くさんの時間と苦労によって食物が作られることを、改めて感じた様子が素直に表現されています。おばあちゃんとの心の交流が伝わります。

J A 岩手県五連会長賞を受賞した嵯峨優人さん（久慈市・宇部中学校二年）の「田んぼの風景」は、田んぼの風景を見つめながら、私たちの生活様式の変化、お米の品種改良、生物の生息環境、自然と向き合った生活の在り方など、考えを広げて書いていく点が優れていました。

優秀賞を受賞した山田快さん（大船渡市・越喜来小学校一年）の「ごはんと牛にゅうのコラボレーション」は、ごはんをしっかりと食べ、牛乳を飲んで、健康で丈夫に育っている快さんの様子が目に浮かびます。元氣いっぱい快さんを応援したくなる気持ちのよい作文です。

同じく優秀賞を受賞した鈴木茉莉奈さん（奥州市・上野原小学校六年）の「あたりまえのことに感謝して」は、震災、高齢化、減反政策など、お米を作りたくても作ることができない方々への思いや、上野原の開拓の苦労などをとりあげて、ごはんを感謝していただくことの大切さを述べています。具体的な事例をあげながら、自分の考えをきちんと述べていました。

これらの受賞作品の他にも優れた作品がたくさんありました。どの作品も、食べられることへの感謝の気持ち、人と人とのつながりや、家族への愛情があふれていました。

これからも、作文を書くことを通して、皆さんの心を豊かに育ててほしいと思います。

【全国コンクール】

- ◆農林水産大臣賞  
 刈谷 志乃美 大船渡市立越喜来小学校 6年 「かかし」
- ◆優秀賞  
 齋藤 実理 平泉町立平泉中学校 3年 「実りの秋」

【岩手県コンクール】

- ◆岩手県知事賞  
 刈谷 志乃美 大船渡市立越喜来小学校 6年 「かかし」
- ◆岩手県教育長賞  
 齋藤 実理 平泉町立平泉中学校 3年 「実りの秋」
- ◆東北農政局盛岡地域センター長賞  
 上田 翔大 二戸市立金田一小学校 2年 「いっぱいいたべるぞ、いただきますあす！」
- ◆JA岩手県五連会長賞  
 福島 菜月 北上市立上野中学校 1年 「喜びの季節」
- ◆優秀賞  
 鷹 觜 真由子 花巻市立湯口小学校 5年 「田植えおどりと米」  
 伊藤 恋彩 花巻市立内川目小学校 2年 「もぐもぐ、おいしいごはんだよ！」
- ◆学校奨励賞  
 大船渡市立越喜来小学校

◆佳作

- 沖田 光潤 鵜飼小 1年 「お米とわたし」 高橋 杏奈 湯口小 5年 「おいしかった  
 佐々木 元 内川目小 1年 「ごはんつぶが はなについてた！」 カレーライス」
- 佐藤 凜 達曾部小 1年 「ごはんおいしいな！」 高橋 真美 上野中 1年 「喜びの実り」
- 柳田 琴美 内川目小 2年 「いただきます〜す」 小関 貴弘 金ヶ崎中 2年 「運動すると  
 平野 紫姫 玉里小 2年 「おいしいおむすび 今日山もりごはんだよ」 ごはんがおいしい」
- 小針 明 青山小 3年 「子どもの日の いただきます！」 佐藤 伶 舞川中 2年 「じいちゃんのごはん」
- 三浦 真緒 小梨小 3年 「みんなでおいしいごはん」 おいしいごはん 佐藤 悠央 舞川中 2年 「いただきます」
- 重川 泰良 黒沢尻北小 4年 「稲かり」 立花 紅空 黒沢尻北小 4年 「田植えをする農家の人」
- 高橋 恵 衣川小 4年 「お母さんと おにぎりづくり」
- 畠山 知樹 大新小 5年 「おばあちゃんの 作ったおにぎり」
- 畠山 一輝 湯口小 5年 「楽しかった田植え」
- 佐藤 靖友 湯口小 5年 「飯ごうで炊いたお米」

【全国コンクール】

◆優秀賞

- 佐々木 恵利佳 陸前高田市立米崎小学校 6年 「米をつくるということ」  
菊池 みずき 奥州市立木細工小学校 3年 「つながっているお米」

【岩手県コンクール】

◆岩手県知事賞

- 佐々木 恵利佳 陸前高田市立米崎小学校 6年 「米をつくるということ」

◆岩手県教育長賞

- 菊池 みずき 奥州市立木細工小学校 3年 「つながっているお米」

◆東北農政局盛岡地域センター長賞

- 川村 日向子 花巻市立石鳥谷中学校 3年 「ごはん・お米とわたし」

◆JA岩手県五連会長賞

- 嵯峨 優人 久慈市立宇部中学校 1年 「田んぼの風景」

◆優秀賞

- 山田 快 大船渡市立越喜来小学校 1年 「ごはんと牛にゆうのコラボレーション」  
鈴木 茉莉奈 奥州市立上野原小学校 6年 「あたりまえのことに感謝して」

◆学校奨励賞

陸前高田市立米崎小学校

◆佳作

- |  |                                       |
|--|---------------------------------------|
| 菊池 明莉 木細工小 1年 「おおきくなあれ」                | 菊池 祐人 木細工小 5年 「木細工小学校の<br>米づくりのひみつ」   |
| 大久保心晴 越喜来小 1年 「おいしいごはん」                |                                       |
| 菊池 飛鳥 木細工小 2年 「おいしいごはんのひみつ」            | 窪田 創 越喜来小 5年 「がんばる祖父母」                |
| 菊池美乃里 木細工小 2年 「たのしい夕ごはん」               | 小原 睦巳 笠松小 6年 「田植え踊りと米づくり」             |
| 古馬 理貴 普代小 3年 「人生」                      | 那須川蓮未 笠松小 6年 「大切にしたいもの」               |
|  | 大津 希梨 越喜来小 6年 「米、それは<br>魔法のスパイス」      |
| 窪田 藍子 越喜来小 3年 「ごはん」と<br>仲よしになったのに…。」   | 太田 拓志 中野中 1年 「日本のお米を守りたい」             |
| 石川 大地 越喜来小 3年 「パワーのみなもと」               | 佐藤 彩 田原中 1年 「わたしとお米」                  |
| 神津 凜 越喜来小 3年 「お米一つ一つぶを<br>大切に」         | 伊藤 空翔 田原中 1年 「家族で作ったお米」               |
| 地舘 凧海 越喜来小 3年 「お米の一つ一つぶ」               | 藤川奈々子 東和中 2年 「お米について」                 |
| 佐藤 旭 千徳小 4年 「感謝していただきます」               | 多田 智哉 東和中 2年 「お米について考える」              |
| 今野 紗衣 越喜来小 4年 「おいしいごはん」                | 高橋 杏奈 一関「高附」中 2年 「たくさんの苦労に<br>「ありがとう」 |
| 岡澤 惟亜 越喜来小 4年 「おじいちゃん、<br>おばあちゃんが作った米」 | 井上孝一朗 北松園中 3年 「祖母のお米」                 |
| 古水しおり 越喜来小 4年 「ごはんは、<br>とくべつなもの」       | 舘下 大地 南城中 3年 「うちのお米」                  |
| 大津 暖 越喜来小 4年 「白いごはん」                   |                                       |
| 坂本 美岬 越喜来小 4年 「山形のお米」                  |                                       |

# 第37回「ごはん・お米とわたし」 作文・図画コンクールの概要

## 応募点数

学校	作文	図画	合計
小学校	24	155	179
中学校	75	18	93
計	99	173	272

## 応募締切日

平成24年9月14日

## 県コンクール第1次審査会

平成24年10月16日（全国コンクール推薦作品18点を決定）

## 県コンクール第2次審査会

平成24年12月11日

## 表彰式

平成25年1月31日 盛岡市「ホテルメトロポリタン盛岡 本館」

## 主催

岩手県内J A・J A岩手県中央会

## 後援

岩手県・岩手県教育委員会・東北農政局盛岡地域センター  
いわて純情米需要拡大推進協議会・J A岩手県信連  
J A岩手県厚生連・J A全農いわて・J A共済連岩手

## 審査員（敬称略）

審査委員長	八重樫 勝	岩手県教育委員会委員長
審査委員	伊藤 満久	前岩手県国公立幼稚園協議会会長
審査委員	及川 公子	盛岡市教育委員会学校教育課指導主事
審査委員	阿部 天	東北農政局盛岡地域センター総括管理官
審査委員	小島 純	岩手県農林水産部流通課流通改善担当課長
審査委員	松本 主税	J A岩手県信連代表理事専務
審査委員	佐々木 辰男	J A岩手県厚生連常務理事
審査委員	杉本 博	J A全農いわて県本部長
審査委員	小原 市右エ門	J A共済連岩手県本部長
審査委員	畠山 房郎	J A岩手県中央会常務理事

※このコンクールに対するご意見・ご感想をお待ちしております。

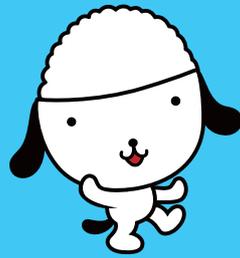
JA岩手県中央会 営農農政部 〒020-0022 盛岡市大通り一丁目2番1号 TEL019-626-8522  
ホームページ<http://www.ja-iwate.or.jp/> Eメールアドレス nosei-ko@jaiwate.or.jp

みんなの**力**で!



がんばろう!岩手

JAいわてグループ



JA岩手県中央会

発行/平成25年1月31日

企画・編集・発行/JA岩手県中央会

印刷・製本/川嶋印刷株式会社



さあ、みんなで取り組んでいこう。  
やっぱり国産農畜産物推進運動  
～みんなのよい食プロジェクト～

